

日本臨床教育学会 第15回研究大会開催要項 (第2次案内)

1. 大会日程

＊理事会：2025年10月17日（金）15:00～17:00

＊1日目：2025年10月18日（土） 9:30～18:45

9:30	10:00	12:00	13:00	15:00	15:15	17:15	17:30	18:45
受付	自由研究発表 (A) 一般研究	休憩	課題研究 I・II・IV	休憩	自由研究発表 (B) 実践事例研究	休憩	総会	

1日目終了後、同会場にて情報交換会を行います。

＊2日目：2025年10月19日（日） 9:00～11:30

9:00	9:30	11:30
受付	シンポジウム	

2. 会場

京都テルサ
(〒601-8047 京都府京都市南区東九条下殿田町70)

※ 大会の会場は「東館」です。

アクセス

- JR京都駅(八条口西口)より南へ徒歩約15分
- 近鉄東寺駅より東へ徒歩約5分
- 地下鉄九条駅4番出口より西へ徒歩約5分
- 市バス九条車庫南へすぐ

詳しくは京都テルサ
HPをご覧ください→



会長挨拶

15 年の足跡を確かめ、希望の物語を紡ぎ合う大会に

日本臨床教育学会会長
庄井 良信（藤女子大学教授）

日本臨床教育学会第 15 回大会が、京都テルサで開催されます。いま、この時代を生きる人々の社会状況と生活世界は、著しい変化と危機に直面しています。日本臨床教育学会は、その発足当初から、危機を孕む「臨床の場」（クリニカル・トポス）と我が身を分かち合い、そこから生まれる希望の「知」を探究してきました。それは、あるべき理想の言説だけでは歯が立たない現実、責任を持って応答できる叡智の探究でした。

発足して 15 年を迎える日本臨床教育学会は、このような叡智を振り返り、これからの歩みを構想し合う大切なときを迎えています。今大会でも、シンポジウムと課題研究、多彩な自由研究の場で、臨床教育学のこれまでとこれからについて語り合います。思わず後ずさりしそうになるリアルな事象を多職種協働で語り合い、希望に向けて問うべき問いの糸口を探り合いたいと思います。今回の大会開催をお引き受けいただいた、京都・関西地区の会員と大会現地実行委員の皆様、心から感謝申し上げます。重要な歴史を刻むこの第 15 回大会に、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

大会実行委員長挨拶

日本臨床教育学会 第 15 回研究大会実行委員長
伊田 勝憲（立命館大学）

日本臨床教育学会第 15 回研究大会の開催にあたり、実行委員長としてご挨拶申し上げます。京都での大会開催は、2016 年（第 6 回大会、立命館大学 衣笠キャンパス）2022 年（第 12 回大会、立命館大学 朱雀キャンパス）以来、3 年ぶり 3 回目となりますが、今回は、国際会議や学術会議の開催で定評がある京都府民総合交流プラザ「京都テルサ」にて、対面を基本としつつ、課題研究とシンポジウムについてはハイブリッドにて開催することになりました。ご参加の皆様を心より歓迎いたします。

開催の準備にあたっては、理事会での議論を重ねつつ、会場の選定・手配からプログラム編成、参加申込システムの設定と運用、開催案内及び関連アンケートの配信に至るまで、本学会事務局長の渡邊由之先生（東大阪大学）が実務の中心を担われてきました。大学のキャンパス以外を会場とする大会の運営では、非会員の院生を含む実行委員会スタッフにとって不慣れな場面が少なくないと思像しますが、持続可能な形を模索する大切な機会として最善を尽くしたいと思いますので、ご理解とご協力をお願いできれば幸いです。

戦後 80 年の節目を迎えた 2025 年、世界では紛争・対立が続き、子ども・市民の命と生活が脅かされていることに加え、多様性を尊重・包摂する共生社会の実現に逆行する動きも見られ、分断の深まりが危惧される状況にあり、子どもの生存と発達を支えるための共同関係を創る臨床教育学の知の結集が今こそ求められていると感じます。今研究大会での出会いと語り合いが、新たな実践と研究の展開につながり、平和で多様性に満ちた社会に近づく一歩となることを願っております。

3. 大会実行委員会

大会実行委員長	伊田 勝憲（立命館大学）
大会実行委員	沼田 あや子（立命館大学）現地実行委員
	二羽 礼（東大阪大学）学会事務局
	吉岡 眞知子（東大阪大学）学会理事・大会支援委員会
	渡邊 由之（東大阪大学）学会理事・大会支援委員会

4. 開催方法

- * 現在のところ、京都テルサにて対面での開催を基本としています。会場の情報機器の都合上、ZOOM によるオンライン参加は課題研究とシンポジウムのみとなります。よって、
自由研究発表は、対面のみの実施となります。ご注意ください。
- * 参加申し込み時には、現地参加または ZOOM 参加のいずれかを選択してください（自由研究発表の発表者は現地参加のみとなります）。決済後の参加方法（現地参加／ZOOM 参加）の変更については、**学会事務局**【crohde2011@yahoo.co.jp】に連絡してください。
- * なお、感染症対策等により、現地での開催が制限される状況が生じた場合には、現地参加でお申し込みいただいた方を ZOOM 参加に振り替えたり、ZOOM 参加から現地参加への変更をお断りしたりすることがあります。何卒ご了承ください。

5. 大会参加費

- * 大会参加費は、下記の通りです。
一般：5,000 円 学生・院生：2,000 円（現地参加もオンライン参加も同額です。）
- * キャンセルされた場合の返金はいたしません。大会運営費とさせていただきます。
- * 会員以外の方でも上記の参加費でご参加いただけます。

6. 参加申し込みについて

- * 大会参加に関しては、**事前申し込み制のみ**とさせていただきます。

申し込み期間：2025年5月30日（金）～10月18日（土）

- * なお、現地参加の場合、宿泊、昼食に関しては、各自で対応をお願い致します。会場には、2軒の飲食店（うどん屋とカフェ）があります。周辺には、飲食店（ラーメン屋、洋食屋、定食屋）

があり、徒歩 10 分圏内にコンビニエンスストア（セブンイレブン）が 2 軒あります。
海外からの観光者が多いエリアのため、宿泊先の予約はお早めをお願いします。学会は宿泊先の
斡旋をしませんので、各自をお願いします。

- * 大会参加の申し込みと参加費の入金は、イベント管理ツール「Peatix」にて行います。
申し込みの時に「現地参加」または「ZOOM 参加」を選択して、チケットを購入（申込）してく
ださい。情報交換会にも参加される方は、参加チケットとは別に情報交換会のチケットも併せて
購入してください。
- * 「発表要旨集録」は事前申し込みのあった方のメールにデータで添付してお送りします。
ただし、大会期間中に申し込まれた方には即時対応ができませんので、予めご承知おきください。
- * 「Peatix」による申し込み方法は、別添資料をご参照ください。

7. 自由研究発表の区分・発表時間について

【一般研究と実践事例研究の区分】

A：一般研究

臨床教育学の研究や実践の発展に関する一般的な学術研究を募集します。子ども理解、障がい児・者の
理解・支援、教育実践、幼児教育・保育、若者自立支援、教師教育、教師の専門性、人間発達援助、
教師・援助者の課題・困難性、若手教師・援助者の自己形成、心の傷とケア、子ども・若者の身体、教
育思想・教育実践史などの領域がこれまで報告されています。

B：実践事例研究

学校や福祉施設、医療・援助に携わる諸機関、NPO・NGO など、地域における一回性の教育実践や
発達援助実践を、研究者と実践者が互いの立場を尊重しながら対等の関係で学びあい、新たな問いや学
問研究の端緒を創発することをめざします。教育現場はもとより、心理、福祉、保育、養護、保健、療
育、医療・看護、行政など、さまざまな領域の、あるいは領域を越えた発達援助実践に関わる研究を募
集します。発表経験の有無は問いませんが、場合によっては、発表形式の確認をすることがあります。

※ A・Bともに、学会事務局において申し込まれた発表内容を考慮したうえで、大会時の分科会を組
織いたします。

【発表時間】

A：一般研究は、発表 20 分、質疑応答 5 分です。

ただし、共同研究で発表者が複数の場合は、発表 40 分、質疑 10 分とします。

B：実践事例研究は、1 報告 60 分（概ね発表 40 分、質疑応答 20 分）となります。

発表者が複数の場合でも 1 報告 60 分です。

8. 会場受付について

- * 大会会場の受付場所は、1 日目は東館 3 階のエレベーター付近、2 日目は東館 2 階のエレベーター付近となります。会場に着きましたら、必ず受付をしてください。
- * 受付では、事前に申し込まれた氏名を印字した吊り下げ名札を用意しています。名札を受け取ったのち、大会にご参加ください。（受付を済ませば、両日参加できます。）
- * 大会当日の金銭のやり取りはしません。必ず事前の参加申込を行ってください。
- * 事前参加をされていない方が会場に来られた場合、その場で Web 手続き（本学会の大会用 Peatix ページからの申し込み）をしていただきます。手続き完了の通知メールを受付にて提示し、吊り下げ名札を受け取りください。なお、氏名欄にはご自身でご記入をお願いします。また、発表要旨集録は大会前にメール送信を終えていますので、その場ではお送りできません。予めご理解ください。

9. 大会発表要旨集録の配布、オンライン参加用 ZOOM アクセス情報の送信について

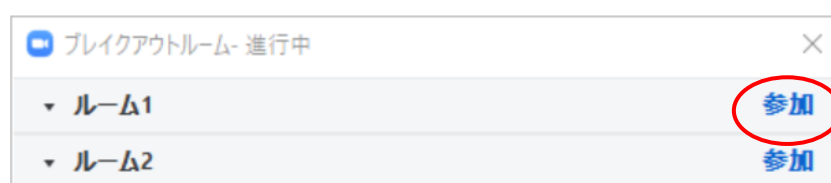
- 1) 発表要旨集録は大会の 1 週間前までに、司会者・発表者・参加申し込みをされた方々にメールで配布いたします。
- 2) ZOOM の利用時に、表示される氏名が異なる場合がございます（iPhone と表示されたり、勤務先の PC 名が表示されるなど）。その際は、ご本人の氏名に変更していただきますようお願いします。
- 3) 発表中、司会者・発表者以外の参加者は、ZOOM のビデオ及びマイクをオフ（ミュート）にしてください。インターネット回線の負担軽減が目的ですので、ご理解をお願いします。なお、会場によって司会者からオン・オフの指示がある場合は、上記の限りではありません。
- 4) 質疑応答においてご発言される方は、ビデオとマイクをオンにしてください。
- 5) 課題研究においては、「ブレイクアウトルーム」機能を用いて会場を設定します。はじめに、司会者・発表者を優先的に振り分け、事前打ち合わせをしていただきます。参加者は、開始時間の 5 分前を目安に、参加したい分科会を選び、会場を移動してください。移動方法がわからないときは、運営者がサポートいたします。

ZOOM 上での会場移動の方法（※PC 版を参考）

- ① 同時時間帯に別の会場がある場合、移動に際しては画面上の「詳細」から「ブレイクアウトルーム」を選択すれば、開設中の会場を選択する画面が開きます。



- ② 次に、移動したい会場の「参加」をクリックすると、その会場の画面に移動します。

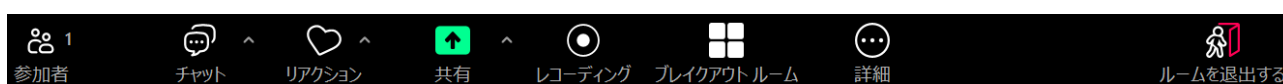


【注意】 会場（ブレイクアウトルーム）の自由選択は、アプリケーションのバージョンが古いと機能しないため、あらかじめ最新版のアップデートをお願いします。

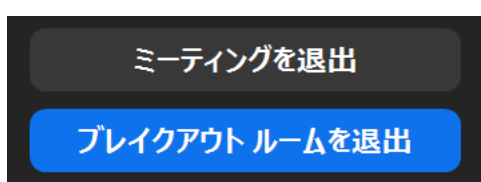
- 6) 「ブレイクアウトルーム」を開設している間は、会場担当がそれぞれの分科会に参加しています。問題が生じた場合は会場担当者、あるいはメインルームの ZOOM 担当者にチャット機能などを通じてお伝えください。

- 7) 課題研究においては、討議が終わりましたら、会場ごとに休憩あるいは解散とします。

すべての会場が終了したことを確認したのち、ZOOM 担当者が「ブレイクアウトルーム」を解除いたします。解除すると、すべての ZOOM 参加者が自動的にメインルームに戻ります。それを待たずに、ご自身でブレイクアウトルームを退出する場合は、下記をご参照ください。



ブレイクアウトルームから退室する場合は、「ルームを退室する」をクリックしてください。下図の画面に切り替わりますので、都合に合わせて退出してください。



← ZOOM を終える場合は、こちら

← ZOOM は終えず、メイン画面に戻る場合はこちら

8) 発表に際しては、ZOOM の「画面共有」が有効となっています。発表要旨集録以外の提示資料がございましたら、発表者自ら「画面共有」にて提示してください。

なお、発表または提案においては、日本臨床教育学会の＜倫理規程＞を遵守してください。特に、個人情報の保護を徹底してください。

10. 自由研究発表及び課題研究における司会者・発表者の皆様へ

1) 「自由研究発表 (A) 一般研究発表」の司会者及び発表者の皆様は、10 月 18 日 (土) 9:40 に各会場に集まってください。開始 5 分前までに司会者との顔合わせや提示資料の確認、動作確認などを行います。各発表につき、発表時間 20 分、質疑応答 5 分 (共同研究で発表者が複数の場合は、発表 40 分、質疑 10 分) です。すべての発表が終了しましたら、部会ごとに 20 分程度の全体討議を設けたのち、会場ごとに閉会してください。

2) 「自由研究発表 (B) 実践事例研究発表」の司会者及び発表者の皆様は、10 月 18 日 (土) 14:55 に各会場に集まってください。開始 5 分前までに司会者との顔合わせや提示資料の確認、動作確認などを行います。各発表につき、発表時間 40 分、質疑応答 20 分です。すべての発表が終了しましたら、会場ごとに閉会してください。全体討議は設けませんが、残り時間があれば、行っていただいても差し支えありません。

3) 課題研究及びシンポジウムの司会者・発表者の皆様は、それぞれの開始時間 15 分前までに各会場に集まってください。オンラインの報告者も、開始 15 分前に ZOOM にアクセスしてください。課題研究及びシンポジウムの司会者・発表者のうち、ZOOM で参加される方は、直前の打ち合わせにおいてブレイクアウトルームを設定することがあります。その際は、担当の指示に従っていただきますようお願いします。

4) 課題研究においては、ZOOM を用いてオンライン配信を行います。「画面共有」が有効となりますので、当日提示する資料がありましたら、発表者自ら「画面共有」にて提示してください。なお、発表内で触れる第三者の個人情報保護を徹底してください。

***ZOOM 参加者に対して資料配布が可能な場合は、当日チャットに添付してください。**

5) 現地で発表される方は、当日提示する資料が配布可能であれば、対面参加者用に各自印刷してご持参ください。

***印刷部数の目安は、自由研究発表 20 部、課題研究 30 部、シンポジウム 80 部です。**

***当日パワーポイントなどで資料を提示する場合は、各会場にパソコンがありますので、発表資料のデータを保存した USB を持参してください。ただし、互換性がよくない場合もありますので、可能であればご自身のノートパソコンもご持参ください。**

6) 課題研究やシンポジウムにおける発表時間や発表順序につきましては、それぞれ異なりますので、担当者を中心に事前に確認してください。直前にも確認をお願いします。

7) 自由研究発表、課題研究、シンポジウム、それぞれについて、記録を残させていただきます。そこで、**各会場の司会者あるいは参加者の中から「記録者」を決めていただきますようお願いいたします。**

記録者は、なるべく会員の方をお願いしてください。大会後、司会者の方に記録者についてお伺いします。その際、記録者の方の氏名、メールアドレスをご教示ください。後日、事務局から記録者に連絡をいたします。

記録者の方は、各会の内容を踏まえた 1600 字程度の記録を事務局に提出していただきます。この記録は、学会通信に掲載させていただきます。

11. 発表辞退について

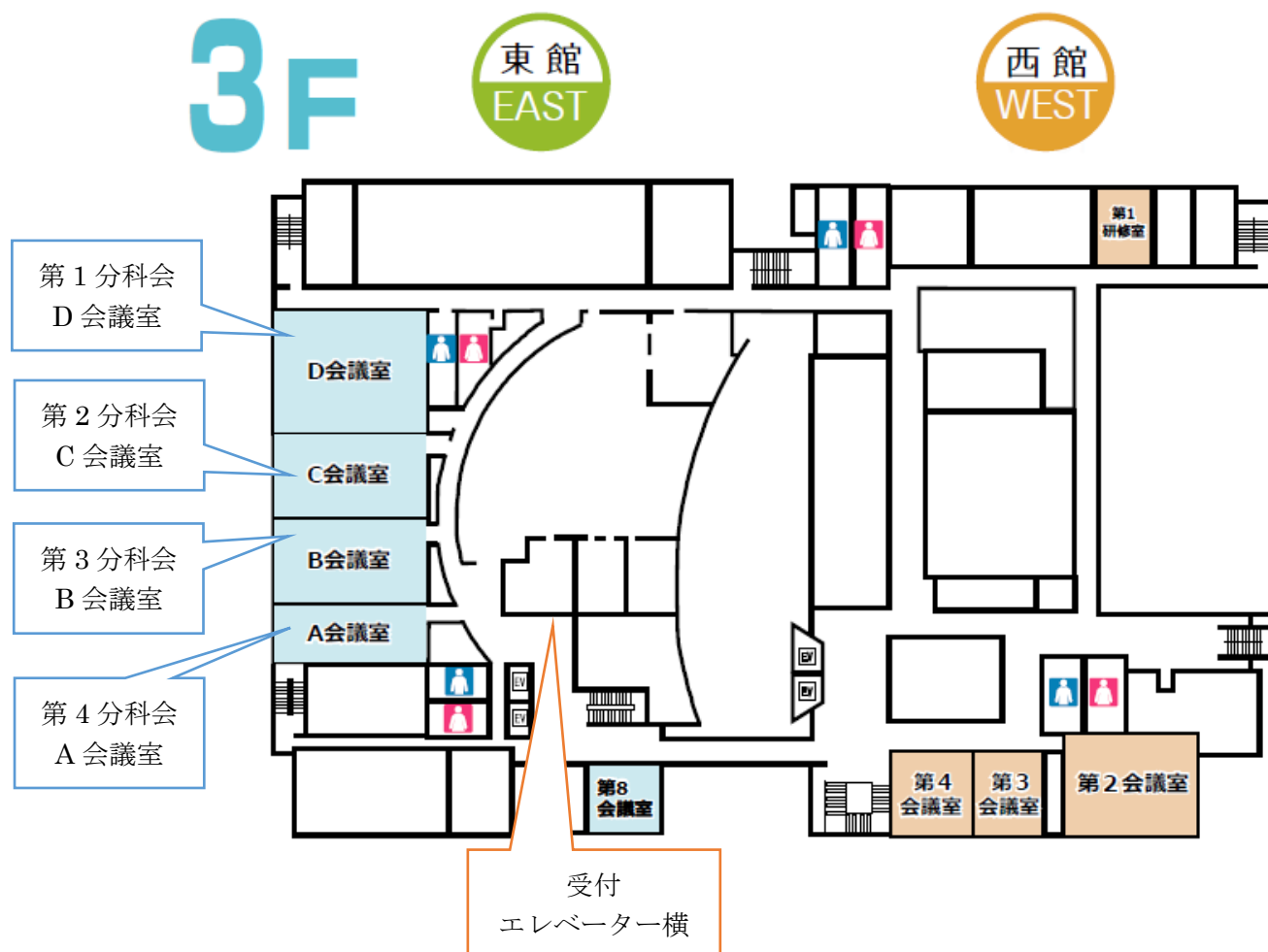
- * 自由研究発表の予定者（共同研究の場合はその代表者）が発表を辞退する状況となった場合、大会発表要旨集録の差し替えを行う必要が生じるため、すみやかに学会事務局にご連絡ください。
- * 共同研究で申し込みをされたものの共同研究者（発表予定者）の参加ができなくなった場合は、あらかじめ共同研究者間で代行を決めたうえで発表に臨んでください。
- * 発表辞退があった場合、その後の発表時間は繰り上げて対応いたします。大会期間中に発表辞退があった場合、または発表者が会場に参加されていない場合も同様の対応となります。
- * 自由研究発表（A：一般研究）での共同発表を予定していたが、共同研究者の不参加によって単独発表になる場合は、単独での発表時間（発表 20 分、質疑応答 5 分）を適用し、その後の発表時間を繰り上げて対応いたします。
- * 避けられない事情により発表者が当初予定されていた発表時間に遅れて参加した場合、自由研究発表の残り時間が、遅れて参加した発表者の発表予定時間よりも多い場合に限り発表を許可するものとします。【参考】自由研究発表 A：一般研究（単独発表）の場合は 25 分、自由研究発表 A：一般研究（共同発表）の場合は 40 分、自由研究発表 B：実践事例研究の場合は 60 分が残っていないければ、遅れての発表はできません。

12. 大会会場一覧

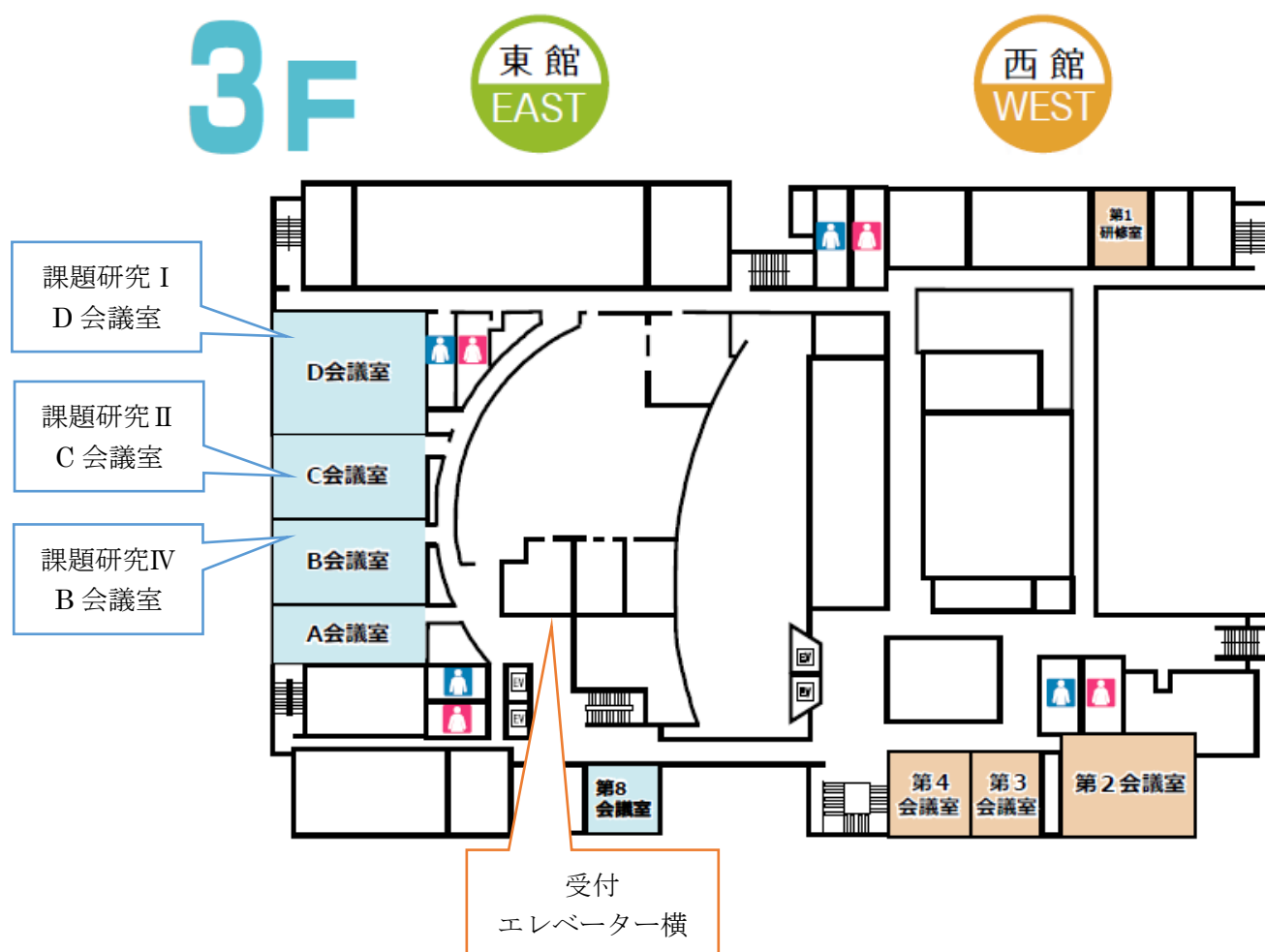
10月17日（金）：理事会（15時～17時） 東館2階 第9会議室



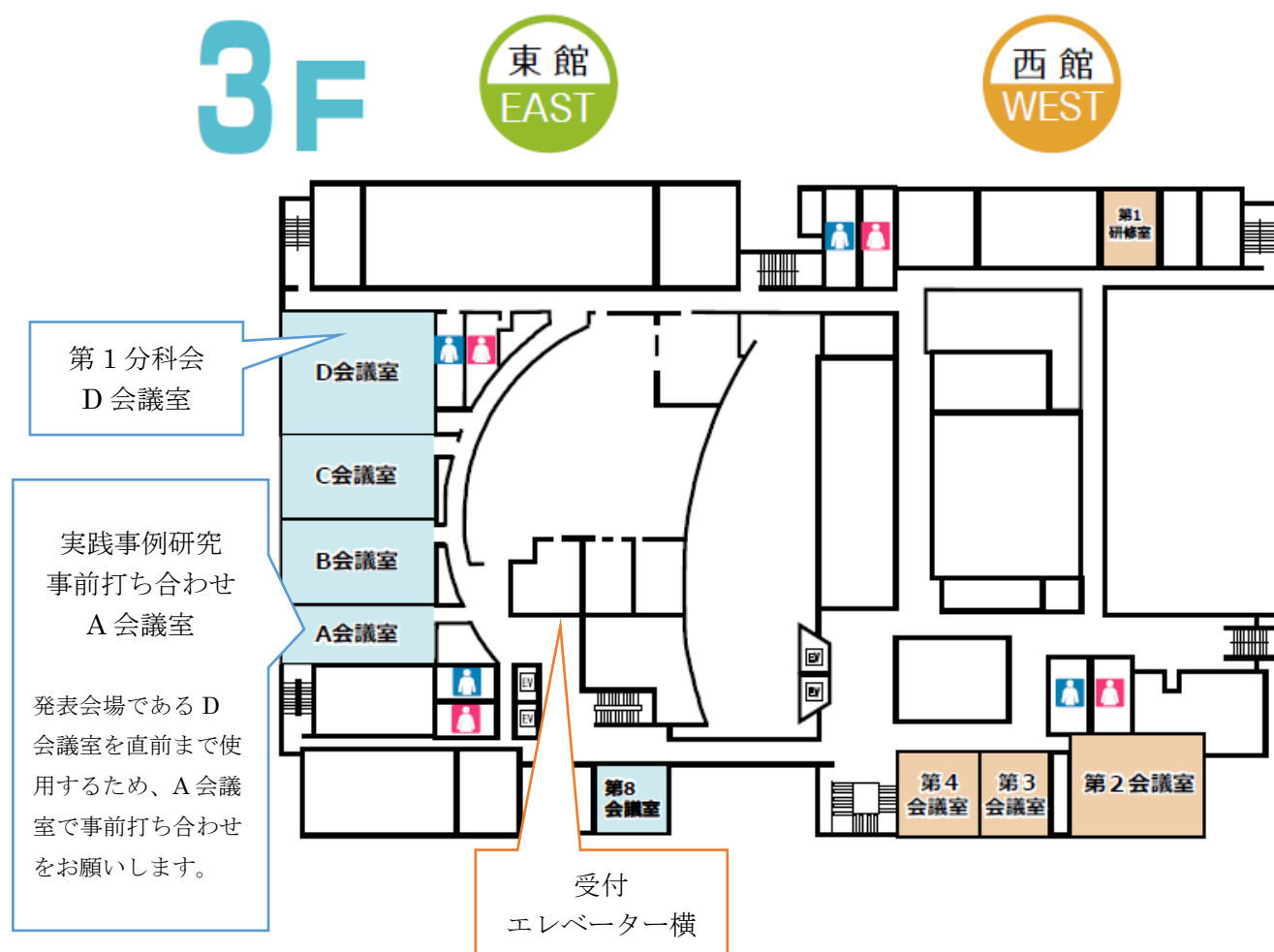
10月18(土): 自由研究発表(A) 一般研究(10時~12時) 東館3階



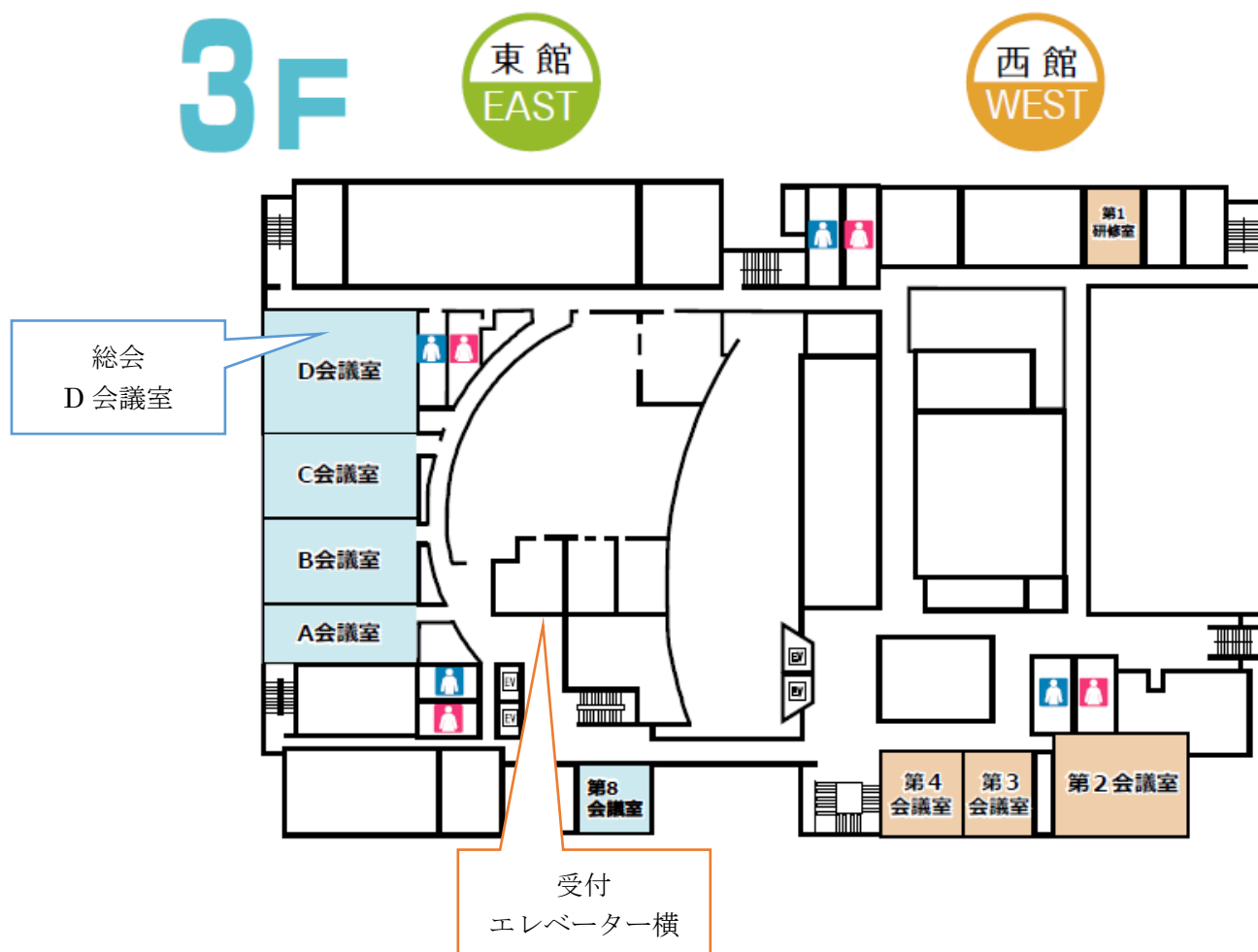
10月18日(土): 課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ(13時~15時) 東館3階



10月18日(土): 自由研究発表(B) 実践事例研究(15時15分~17時15分) 東館3階



10月18日(土): 総会 (17時30分~18時45分) 東館3階 D会議室



10月19日（日）：シンポジウム（9時30分～11時30分） 東館2階 中会議室



- ※ 使用教室において机や椅子を移動した場合は、分科会終了後に原状復帰をお願いします。
- ※ ごみは持ち帰りが原則です。会場に設置されたごみ箱は使用しないでください。

13. プログラム

1 日目 10 月 18 日 (土)



9 : 30 ~	受付開始
10 : 00 ~ 12 : 00	自由研究発表 (A) : 一般研究
13 : 00 ~ 15 : 00	課題研究 I ・ II ・ IV
15 : 00 ~ 15 : 15	休憩
15 : 15 ~ 17 : 15	自由研究発表 (B) : 実践事例研究
17 : 15 ~ 17 : 30	休憩
17 : 30 ~ 18 : 45	総会
19 : 00 ~ 20 : 40	情報交換会

※ 課題研究Ⅲは、今大会では実施いたしません。



自由研究発表（A）：一般研究
10月18日（土）10：00～12：00

第1分科会

ケアと教育に携わる援助者の思想

司 会：住友 剛（京都精華大学）
土永 葉子（帝京平成大学）

10：00～10：25

- * 学校での傷つきを抱えた子どもをめぐる援助者たちの連携の諸相
ナラティブ的探究の視点からの事例検討

首藤 貴子（愛知産業大学）

10：25～10：50（共同研究であるが発表者1名であるため、1名分の時間設定とする）

- * 支援者の語りにみる不登校児の身体と支援上の課題

○藤川 和俊（東京国際大学）
金井 玲奈（桜美林大学）

10：50～11：15

- * 「精神障害を生き抜くとはいかなることか」を多様性にひらく
—第7報 川上さんへのインタビューから—

松田 康子（北海道大学）

11：15～11：40

- * 小児がんをはじめとする病気療養児とその家族を支援する民間団体について
—各支援団体の代表者の語りから—

藤田 怜那（北海道大学）

11：40～12：00

全体討議



自由研究発表（A）：一般研究
10月18日（土）10：00～12：00

第2分科会

保育者・教育者の自己教育と専門性

司 会：久保田 治助（早稲田大学）
加藤 恵美子（桃山学院大学）

10：00～10：25

＊ 一人一人を大切にする保育における保育者の人間的成長

二羽 礼（東大阪大学）

10：25～10：50

＊ 小学校教師の専門性とは何か
その3…自己の実践史をふり返って

北川 健次（相愛大学）

10：50～11：15

＊ 対話型研修の体系化と保育者・小学校教諭の力量形成についての検討
ー離島地域における幼小接続・連携の観点からー

宮本 雄太（福井大学）

11：15～11：40

＊ 1990年代教育困難校における子ども理解を支えたもの
～difference（何かが違う）とabsence（あるべきものがない）を手がかりに
宮井 真由（北海道公立学校スクールカウンセラー、北海道大学大学院）

11：40～12：00

全体討議



自由研究発表（A）：一般研究
10月18日（土）10：00～12：00

第3分科会

臨床教育学の思想と研究

司 会：古市 直樹（梶山女学園大学）
山内 清郎（立命館大学）

10：00～10：25（共同研究であるが発表者1名であるため、1名分の時間設定とする）

＊ 遊びと学びの「架け橋」に関する教育学的考察

ーペンティ・ハッカライネンのナラティブ・ラーニング概念の再考を中心にー

○田中 弘美（公立学校スクールカウンセラー）

庄井 良信（藤女子大学）

10：25～10：50

＊ アンリ・ワロン『子どもの精神的発達』（1941）の位置づけをめぐって

ー学説史的研究としての一考察ー

亀谷 和史（日本福祉大学名誉教授）

10：50～11：40（共同研究であり、発表者2名のため発表40分・質疑10分とする）

＊ 保護者と教師の教育的協働と交流～山本正次・鹿島和夫の実践の検討から

○上田 孝俊

○田崎 由子

11：40～12：00

全体討議



自由研究発表（A）：一般研究
10月18日（土）10：00～12：00

第4分科会

子ども・若者の臨床像への接近

司 会：松永 康史（桜花学園大学）
三好 伸子（金沢星稜大学）

10：00～10：25（共同研究であるが発表者1名であるため、1名分の時間設定とする）

- ＊ 幼児の生活実態に関する研究
一保護者対象の調査結果をもとに一

○小谷 正登（関西学院大学）
岩崎 久志（流通科学大学）
三宅 靖子（姫路獨協大学）

10：25～10：50（共同研究であるが発表者1名であるため、1名分の時間設定とする）

- ＊ 大学生の精神保健上のリスクを捉えるためのAGEs（終末糖化産物）の可能性

○小堀 晶子（新潟医療福祉大学）
松元 圭（新潟医療福祉大学）

10：50～11：15（共同研究であるが発表者1名であるため、1名分の時間設定とする）

- ＊ AGEs と大学生が抱える悩みに関する混合分析的研究：2年間の縦断データから

○松元 圭（新潟医療福祉大学）
小堀 晶子（新潟医療福祉大学）

11：15～12：00

全体討議



10月18日（土）13：00～15：00

課題研究Ⅰ：現代の子どもと子ども理解

子ども理解の深化に向けて、子どもの生きづらさの根源を問う 第3回 トランスジェンダー生徒の困難をつくりだす学校と性別移行

報告1：トランスジェンダー生徒の困難をつくりだす学校と性別移行の実践（仮）

土肥 いつき（京都府立高校教員）

コメンテーター：片岡 洋子（千葉大学名誉教授）

＜趣旨＞

「子ども理解の深化に向けて、子どもの生きづらさの根源を問う」というテーマのもと、2023 年度からは、「セクシュアル・マイノリティの子どもの生きづらさ」に焦点を当てて、子ども理解の深化をめざしてきた。第 1 回目の 2023 年は、片岡洋子理事が学校教育と性的マイノリティの生きづらさの基本問題について、国見亮祐さん（にじいろほっかいどう）が性的マイノリティの子どもの居場所「にじず札幌」での活動をとおしての現状と課題について、報告して討議した。第 2 回目の 2024 年は、セクシュアル・マイノリティの子どものうち、生まれたときに外性器の形状を根拠に割り当てられた書類の性別と、自認する性（ジェンダー・アイデンティティ）が異なるトランスジェンダーの子どもの生きづらさについて考えた。トランスジェンダー男子を育てている沼倉智美さんは、親として子どものありのままを受け入れるまでの葛藤や、子どもが二次性徴に悩み苦しんだ日々に伴走したつらさ、学校や周囲の環境を変えながら、他の当事者親子とのつながりをつくる活動などについて報告した。またトランスジェンダー女性であることをオープンにし、学校や地域社会に性の多様性と人権尊重の教育を広める活動をしている中学校教員の永井恵さんは、ご自身の子ども時代の学校体験なども含めて、学校をどう変えようとしてきたかを報告した。

第 3 回目の今回は、2 回目で明らかになった学校の性別二分化がつくりだす生きづらさについて引き続き考える。高校教員の土肥いつきさんは、2006 年からトランスジェンダー生徒の交流会を開催し、当事者が安心して語れる場をつくってきた。またトランスジェンダー当事者の学校体験インタビュー調査を行い、その研究成果を博士論文にもまとめ、著書『トランスジェンダー生徒と学校―「抱えさせられる」困難と性別移行をめぐる実践』（生活書院、2025 年）も刊行している。そうした土肥さんの実践と研究から、トランスジェンダー生徒が直面する学校での困難と、性別移行の実践等について報告していただく。

司会：影浦 紀子（松山東雲女子大学）

筒井 潤子（都留文科大学）



10月18日（土）13：00～15：00

課題研究Ⅱ：子ども・若者の育ちや自立を支える地域からの共同

地域の大人と子どもたちが包摂される実践に学ぶ ー共生社会時代の集団づくりとはー

報告1：子ども達の生きる力を育む学童保育から、みんなの居場所への広がり

中辻 宏喜（民間学童保育施設ふおれすときっず）

報告2：こども“と”ともにつくる、特別じゃない日常～ともに学ぶ、ともに育つ～

三宅 正太・秋保 智咲・福家 遼（特定非営利活動法人山科醍醐こどものひろば）

<趣旨>

子ども・若者支援において、教育と福祉の分断を乗り越える地域連携のニーズが増大している。インクルーシブ教育システムの掛け声とは裏腹に、この10年余で特別支援学級の在籍児童生徒数は倍増し、近年は不登校を含む長期欠席が加速的に増加している。校内外のフリースクールや学びの多様な学校など「居場所の多様化」は進んでいるのかもしれないが、それは「通常の学級」が多様な子どもたちを包摂しきれていないことと表裏一体であり、「内部多様性」が損なわれているようにも見える。

こうした中で、課題研究Ⅱでは、包摂的・包括的で切れ目のない支援という視点から、高校内の居場所カフェ、不登校・別室登校の中学生支援、新しい小学校創設の地域教育運動、そして若者の自立支援に取り組むNPOの取り組みを取り上げてきた。発達段階・学校段階を網羅しつつ、地域と学校がつながる姿を見てきた。

今回は、学校や福祉とも丁寧に連携し、信頼関係を構築する中で、学習支援、生活支援、食支援、文化的活動など、地域における包摂的・包括的な支援を展開している2つの団体に報告をお願いする。両団体ともに子どもの「逸脱」と見られがちな行動に対して、決して排除せず、他者との関係を切らないアプローチが展開されている共通点がある。相互理解の促進や市民性の涵養など、共生社会の実現という観点から、1つの居場所の中に多様な子どもたちと大人が包摂されるというアプローチの可能性について展望したい。

司会：伊田 勝憲（立命館大学）

富田 充保（相模女子大学）



10月18日（土）13：00～15：00

課題研究Ⅳ：教師の専門性の再検討

教師の専門性を子どもの視点から問い直す ー「個別最適な学び」が強調されるなかでー

報告1：“ぐちゃぐちゃ”に留まり、教師を生きる

西 勇氣（北海道・中学校）

報告2：公立中学校で個別最適を問う

中林 沙也加（大阪・中学校）

コメンテーター： 福井 雅英（滋賀県立大学）

＜趣旨＞

子どもの声を聴き取り、子どもとともに授業をつくる。これが教師の仕事であり、これを理論的に実践的に研究していくことが教師の専門性を深めることだと私たちは考えてきました。

しかし、「個別最適な学び」を前面に打ち出した中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（2021、以下「答申」）が出されてからの状況は、これまでの教師の専門性についての考え方を揺るがしかねないものとなっています。

「答申」は、「子供自身が学習が最適となるよう調整する『学習の個性化』」という言葉を使って「どのように学ぶのか」を子どもが自己決定できることが「個別最適な学び」だとしています。これは、子どもが学びの主体とされているかのように見えますが、しかし、実際には「調整する」という言葉が示すように「なにを」「なんのために」学ぶのかということまでは、教師と子どもには委ねられてはいません。そして、教師にはその進捗具合を管理することがもとめられることになるのかもしれませんが。そればかりか、「学習履歴（スタディ・ログ）」をはじめとした様々な教育データを蓄積・分析・利活用することにより、学習だけでなく生活も含めて、子ども一人ひとりを（「個別」に）、より「精緻」に、統制・監視することが教師の仕事になるのかもしれませんが。もちろん、これが今すぐに全面的に展開されるということはありません。しかし、こうした考え方が広がっていくならば、「教育とは何か」「教師の仕事とは何か」があらためて問われることになるでしょう。

本課題研究では、①「個別最適な学び」が教育現場に及ぼしている状況の検討を切り口にしながら、②「子どもの視点」を大切にしている中学校における2つの教育実践の検討を通して、教師の専門性について考えていきたいと思います。

司会：春日井 敏之（近江兄弟社高等学校、立命館大学名誉教授）

佐藤 隆（都留文科大学）



自由研究発表（B）：実践事例研究
10月18日（土）15：15～17：15

第1分科会

子どもの育ちを支える協働と連帯

司 会：谷本 千亜紀（京都保健衛生専門学校）
吉岡 眞知子（東大阪大学）

15：20～16：20

＊ 子どもの願いを実現する学校図書館
～知と学びの交差点に届いた小さな声を支える～

藤原 共子（公立小学校教員）

16：20～17：20

＊ 進行性疾患を有する子どもの育ちと学級コミュニティ

南雲 敏秀（福井大学）

2日目
10月19日(日)



9:00～ 受付開始

9:30～11:30 シンポジウム



10月19日(日) 9:30~11:30

シンポジウム

臨床教育学設立15年研究誌公刊企画に向けて(Ⅳ)

コモン・スペースで語り合う臨床教育学

＜趣旨＞

子ども・若者、そのかけがえのない人生に伴走する大人たち。この時代を生きる多くの人々の社会状況と生活世界は、著しい変化と危機に直面している。日本臨床教育学会は、その発足当初から、危機を孕む「臨床の場」(クリニカル・トポス)と我が身を分かち合い、そこから生まれる希望の「知」を探究してきた。それは、あるべき理想の言説だけでは歯が立たない現実、責任を持って応答できる臨床知の探究であった。発足して15年になる日本臨床教育学会は、このような臨床知を探究できているだろうか。

日本臨床教育学会は、日本の社会と子どもの生存・発達の「危機」のなかで、子ども理解を深め、子どもを支える新しい共同関係を探り、築くことを目的として発足した。発達援助専門職や教育職の人々、研究職にある人々が互いに協働し、教育、福祉、心理・臨床、医療などの分野と連携しながら、それぞれの専門性を問い直し、人間発達援助に関する新たな臨床知を探究する学術研究の組織である(学会HP掲載)。

これまでの3年間、本学会では、次のようなテーマでシンポジウムを開催した。それらは、2022年には、「臨床教育学研究の国際的環境：黎明期におけるアカデミックな探索の軌跡」、2023年には、「発達援助職どうしの＜協働＞から生まれる臨床的な問い」、2024年には、「いま教師にとって＜子ども理解＞の専門性とは何か」というテーマであった。これらは臨床教育学の黎明期から、私たちが学会として「問うべき問い」をどこに照射すべきかを探究するセッションであった。

また、本学会では、発足以来、以下の5つの課題研究委員会を設けて、継続した研究課題に取り組んできた。

- ① 子ども理解：子育て・保育・ケア・ジェンダー・特別支援等
- ② 子ども・若者支援：地域共同・居場所・不登校等
- ③ 発達援助職の専門性：心理・福祉・多職種協働等
- ④ 教師の専門性と教師教育改革：教師教育者(teacher educator)論等
- ⑤ 臨床教育学の概念と方法：ナラティブ・国際的な研究環境等

これらの課題研究委員会は、いずれも、教育を巡る「臨床の場」で、マイノリティの人々を含む当事者の声を聴き、コミュニティを基盤としたケアとエンパワメントについて、探究するものであった。

本学会は、今年で設立15年を迎える。今回のシンポジウムでは、臨床教育学のこれまでの研究を振り返り、これからの研究を構想していくために、事前に実施した会員へのアンケート(臨床教育学会で「議論したいこと・議論すべきこと」に関する自由記述)を分析提案し、参加者と共に学会活動の希望を紡ぐ「コモン・スペース」での語り合いを実施したい。そのことを通して、学会設立15周年を記念する刊行物(機関誌特別号/書籍等)の公刊について議論したい。



【第 15 回研究大会に関する問い合わせ先】

日本臨床教育学会事務局

〒577-8567

大阪府東大阪市西堤学園町 3-1-1 東大阪大学 渡邊由之研究室

E-mail : crohde2011@yahoo.co.jp